

**製品名: Cdc2 (リン酸化 Tyr15) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04413**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	34kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CDK1
別名	CDK1; CDC2; CDC28A; CDKN1; P34CDC2; Cyclin-dependent kinase 1; CDK1; Cell division control protein 2 homolog; Cell division protein kinase 1; p34 protein kinase
遺伝子 ID	983.0
SwissProt ID	P06493
免疫原	抗血清は、ヒト CDC2 由来の Tyr15 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 5-54

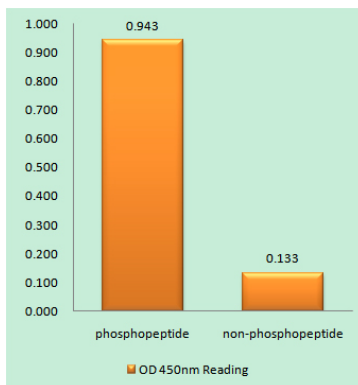
**背景**

サイクリン依存性キナーゼ 1 (CDK1) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリーのメンバーです。このタンパク質は、M 期促進因子 (MPF) として知られる高度に保存されたタンパク質キナーゼ複合体の触媒サブユニットであり、真核生物の細胞周期における G1/S 期および G2/M 期の遷移に不可欠です。有糸分裂サイクリンはこのタンパク質と安定して会合し、調節サブユニットとして機能します。このタンパク質のキナーゼ活性は、細胞周期を通じてサイクリンの蓄積と分解によって制御されます。このタンパク質のリン酸化と脱リン酸化もまた、細胞周期制御において重要な調節的役割を果たします。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2009 年 3 月],触媒活性: ATP + [DNA 指向性 RNA ポリメラーゼ] = ADP + [DNA 指向性 RNA ポリメラーゼ] リン酸。 ,触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,酵素調節: Thr-14 または Tyr-15 のリン酸化は酵素を不活性化し、Thr-161 のリン酸化は酵素を活性化する。 ,機能: 真核生物の細胞周期の制御に重要な役割を果たします。 高等細胞では、S 期および有糸分裂に入るために必要です。 p34 は、RNA ポリメラーゼ II の反復 C 末端をリン酸化します。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。 CDC2/CDKX サブファミリー。 ,類似性:1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。 ,サブユニット:制御サブユニットおよびサイクリンと安定だが非共有結合性の複合体を形成する。 DLGAP5 と相互作用する。 アイソフォーム 2 はサイクリン B1 と複合体を形成できず、CDK 阻害剤 p21 にも結合できない。 有糸分裂中に触媒活性を持つ CCNB1 および RALBP1 と相互作用し、間期にエンドサイトーシス複合体を形成する。 ,

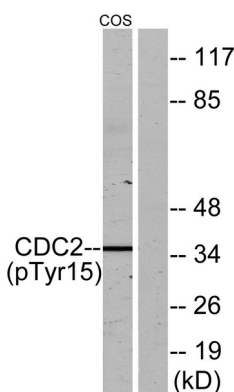
## 研究分野

Cell\_Cycle\_G1S;Cell\_Cycle\_G2M\_DNA;卵母細胞減数分裂;p53;ギャップ結合;プロゲステロンによる卵母細胞成熟;

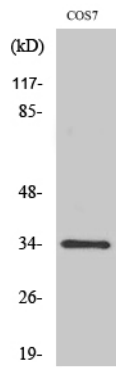
## 画像データ



CDC2 (リン酸化 Tyr15) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



COS7 細胞ライセートの CDC2 (リン酸化 Tyr15) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Cdc2 (Y15) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析